

## 産業現場等における実習（現場実習）

高等部では、2・3年生は年に2回程度、1年生は年に1回、現場実習を実施しています。卒業後の進路先を決めていくにあたって、学校を離れて実際の企業や事業所で仕事や働く生活を体験できる大切な機会です。前号で紹介しましたとおり、本校卒業生の進路先は、障がい福祉サービスの利用や一般企業への就労など、選択肢は様々です。自分に合った社会参加の方法を考えながら“自己決定”していけるように、現場実習の意義・目的を理解して真剣に取り組んでほしいと思います。

### 現場実習は何のために行くのか？

<p>①将来の生活を経験する</p> 	<p>②自分に合う仕事・活動の場を探す</p> 	<p>③客観的に評価してもらう</p> 	<p>④（保護者の）情報収集の場</p> 
---	--	---	---

### 現場実習を経験し、どう生かすか？

<p>①卒業後の生活をイメージし、家庭生活を見直す</p> <p>基盤となる <b>生活力</b></p>	<p>②自己理解を深め、自分に合う進路先を見つける</p> <p>自分を知り <b>進路を選ぶ</b></p>	<p>③社会生活で求められることを知る</p> <p>課題に向き合い <b>改善</b>する</p>
---	---	--

現場実習を終えて、今後どう繋げるかがとても重要です。基盤となる生活を見直して改善すること、自分の強みや課題を知り自分に合った社会参加の仕方を考えて進路を選ぶこと、評価を受け止めて努力することが必要です。現場実習を短期間のイベントで終わらせず、将来の生活のリハーサルだと捉えて進路に向き合う機会にしてください。

## 高等部卒業後の生活につながる土台づくり

“自立”＝「自分の力で生活する・働く」という訳ではなく、“自立”＝「障がいの程度に関わらず自分らしく生きていくこと」という考え方があります。それを高等部卒業後に実現するためには、ADL（日常生活動作）がその土台となります。立つ・起きる・座る・歩くなどの身体の動き、食事、更衣、排泄、入浴、整容などの生活上の基本的なことを自分一人でするように目指すところから、積み重ねる必要があります。焦らず慌てずゆっくりと準備を進めていきたいですね。

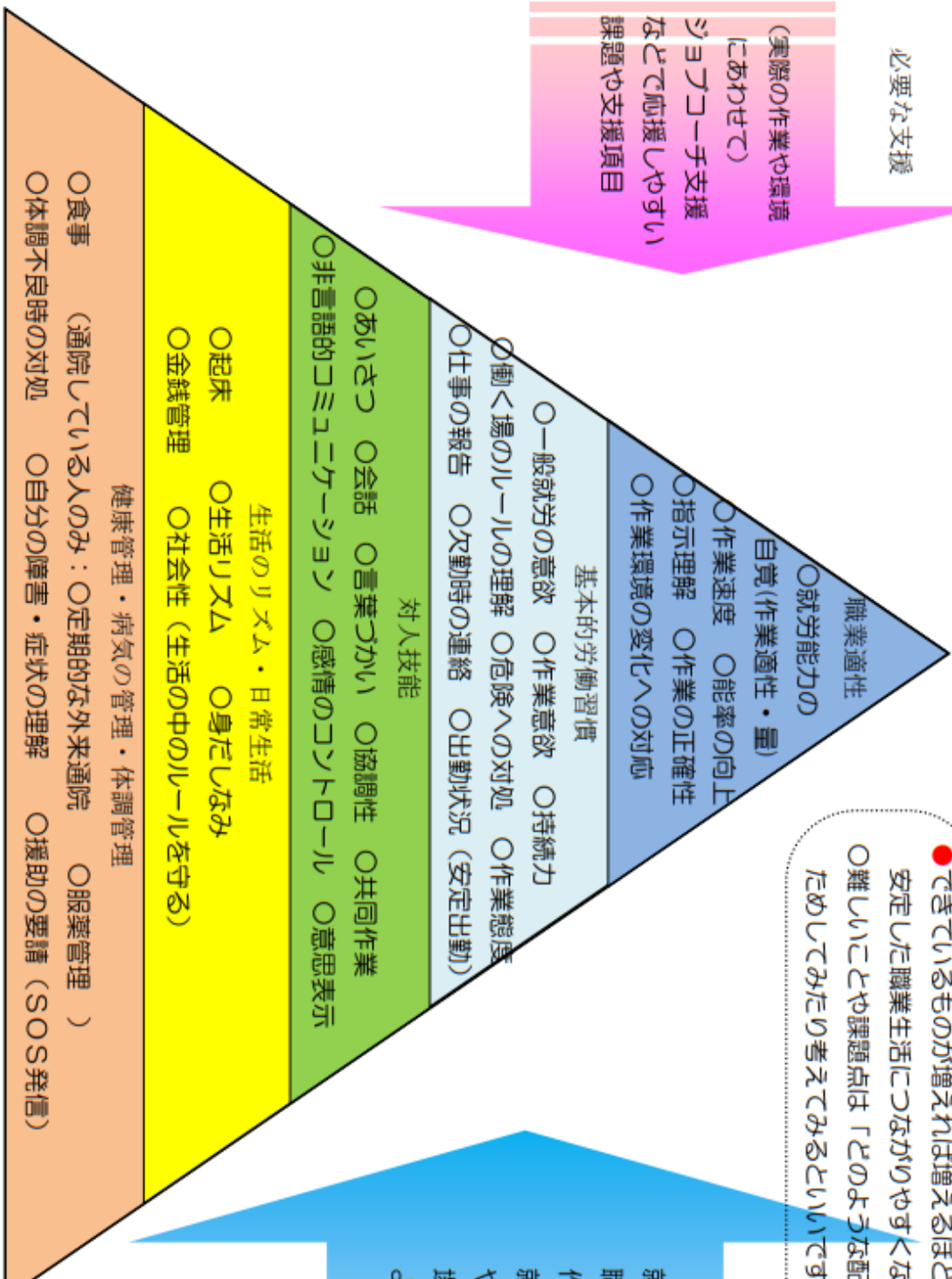
裏面には、高齢・障害・求職者雇用支援機構が示している安定した職業生活のために必要な段階（職業準備性ピラミッド）を紹介しています。就労・福祉的就労を目指すならば、尚更この土台となる生活の基盤が重要です。



# 職業準備性ピラミッド

必要な支援

(実際の作業や環境にあわせて)  
 ショプコー手支援  
 などで応援しやすい  
 課題や支援項目



● できているものが増えれば増えるほど、働く土台がしっかりしてくるので安定した職業生活につながりやすくなると思います。  
 ○ 難しいことや課題点は「どのような配慮や支援があるとよいか？」をためてみてたり考えてみるとういすね。



就労移行支援事業所  
 職業訓練  
 作業所など...  
 就職に向けた土台づくり  
 や経験づくりができる  
 場面で取り組むと  
 よいこと

働く土台づくり

医療と相談や調整が必要  
 テイクアへの参加など